

## 確率 さいころ・応用問題 2

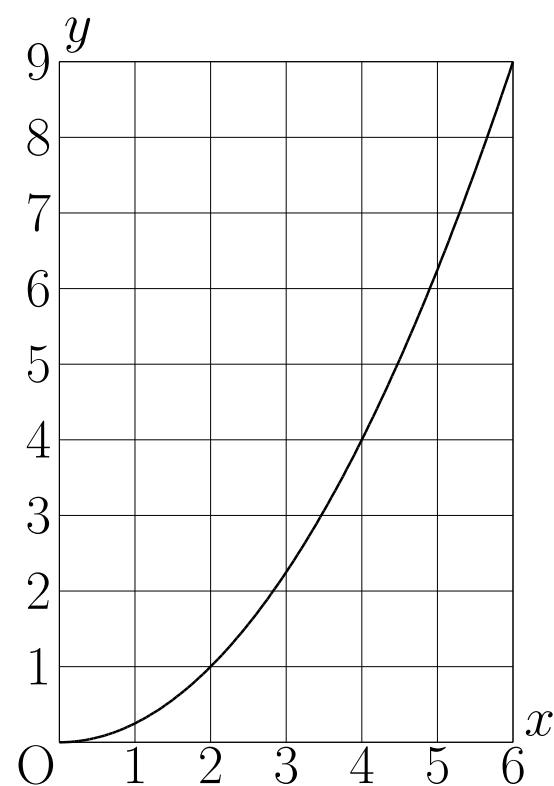
1 から 6 までの目が出る 2 つのさいころ A、B がある。さいころ A、B のそれぞれについて、どの目が出ることも同様に確からしいものとする。2 つのさいころ A、B を同時に投げ、さいころ A の出る目の数を  $a$ 、さいころ B の出る目の数を  $b$  とするとき、次の (1) ~ (3) の  の中にあてはまる最も簡単な数を記入せよ。

(1)  $a + b$  の値が素数となる確率は  である。

(2)  $\frac{2a+b}{5}$  の値が整数となる確率は  である。

(3) 右の図は、関数  $y = \frac{1}{4}x^2$  ( $0 \leq x \leq 6$ ) のグラフである。関数  $y = \frac{1}{4}x^2$  ( $0 \leq x \leq 6$ ) のグラフと関数  $y = \frac{b}{a}x$  のグラフの交点のうち、原点と異なる点を P とする。点 P の  $x$  座標、 $y$  座標がともに整数になる確率は  である。

(福岡)



# 確率 さいころ・応用問題2 解答

(1)  $\frac{5}{12}$

(2)  $\frac{7}{36}$

(3)  $\frac{11}{36}$

## ● ポイントの確認

ヒロ：36通りの目の出方を全部調べて解くこともできるけど、該当する目の出方<sup>が</sup>をある程度しぼって解く方法はないだろうか？